

広報

こじがや

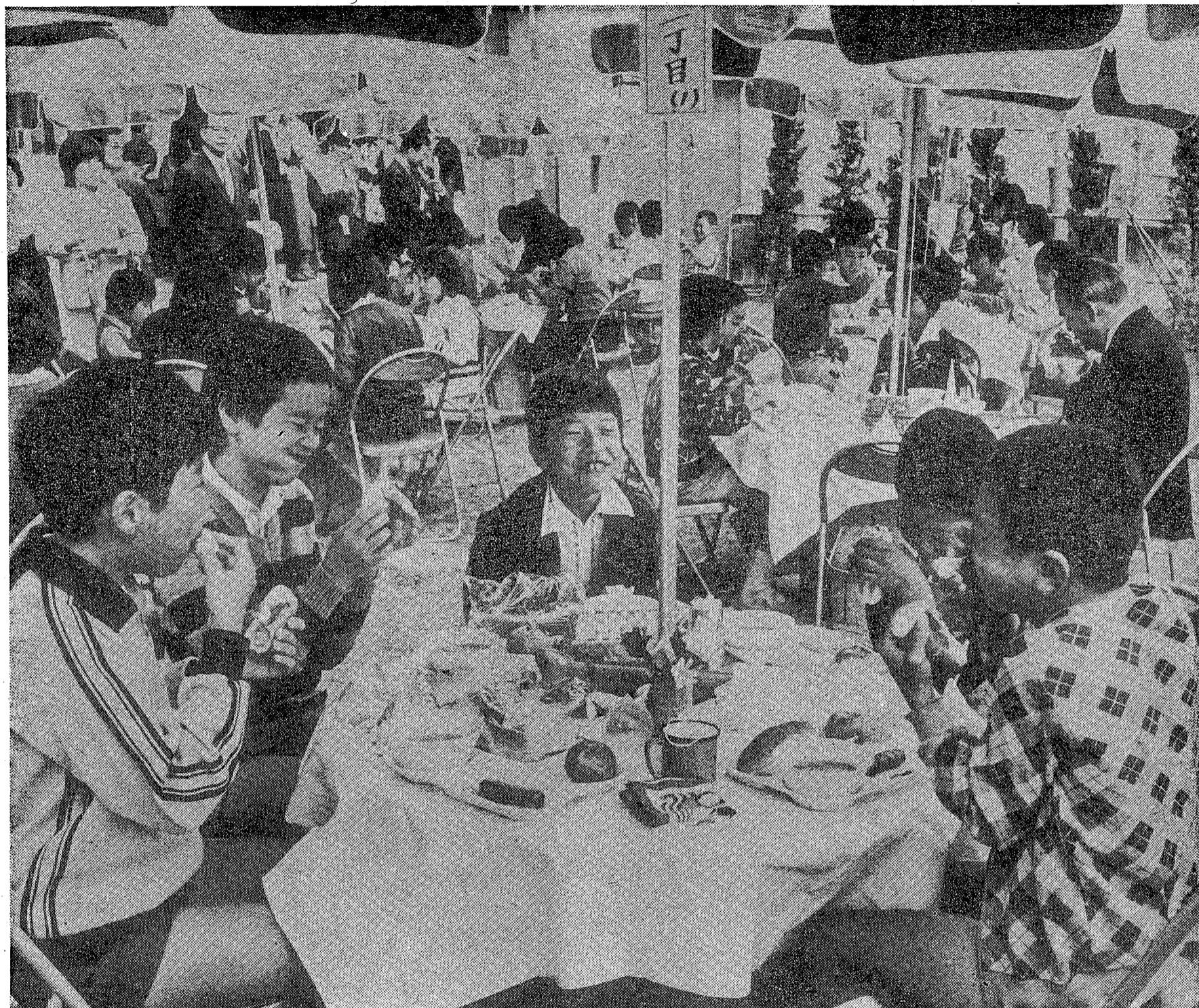
11月1日

昭和54年(1979) No.604

編集

越谷市役所企画部広報課

昭和32年8月5日第1号発行
毎月2回(1日・15日発行)

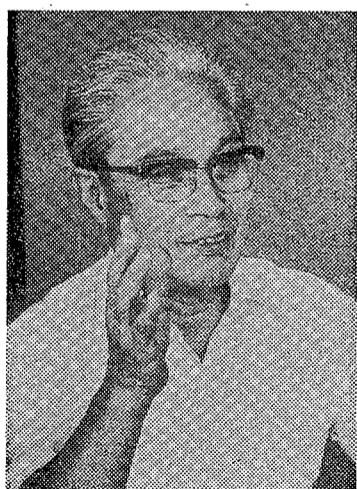


外で食べるとおいしいな

宮本小学校の「青空給食」

宮本小学校は、10月24日同校で開かれた「学校給食研究発表会」で、「野外給食は子供同士の連帯感を生む理想的な学校給食の姿」という研究発表をして大きな反響を呼びました。

校舎東側にある芝生の「青空ひろば」に、6人掛けの丸テーブル10組を並べ、通学班や誕生日別などに分けられた60人が一緒に食事をするこの「青空給食」、今年6月から実施されたものですが、偏食や食べ残しもなくなり、子どもたちにも大好評でした。



名も知らぬ畔道の草花に心をうたれることもしばしばです、と出山さん

むらさきのさきかけの花咲しだ
群の細道をまらひたり
浮草は妙に機の匂いがすると思った。近
くを流れる利根川までの朝の散歩が
思つたら無性に海が恋しくなった。近
日課となり、豊富な川のながれをつた
つてあちこち歩くようになつた。
越谷は寒い川が多い。

日照りの田園に乾上つていく水藻や
陽に乾くあをつきゝその匂ふゆえ
不意なる思ひ海に逢ひだし
秋はちき園に住みつきまゐる
ふたりして多野紹策

半世紀を九州長崎の小島に過ごした
私にとって、越谷という土地は野の草
花の宝庫という感じであった。毎朝、
毎夕歩きまわるものであった。「海
と山がない」といつたら、「冗談じゃ
ない、海はともかく、埼玉は山の国だ
よ」と東京の人々にわらわれたりした。

秋はちき園に住みつきまゐる
ふたりして多野紹策

野の草花も
平方一郎

出 山 光 儀 (63歳)
で やまみつ
ぎ

越谷とわたし

「越谷とわたし」は、あなたの
コーナーです。みなさんの投稿を
お待ちしています。字数は850字
程度です。

今月は市税6期分の納期
です。納期限は11月30日
(金)まで。納期限内納
付にご協力ください。

スベースヤード・ロマンはるけまじの無限大
有人宇宙船飛翔の未来もつ空の
台風一過のあとなんと明るい風光
である。大地はみのり豊かに、柑橘
の空にほみながらあふれる光がある。

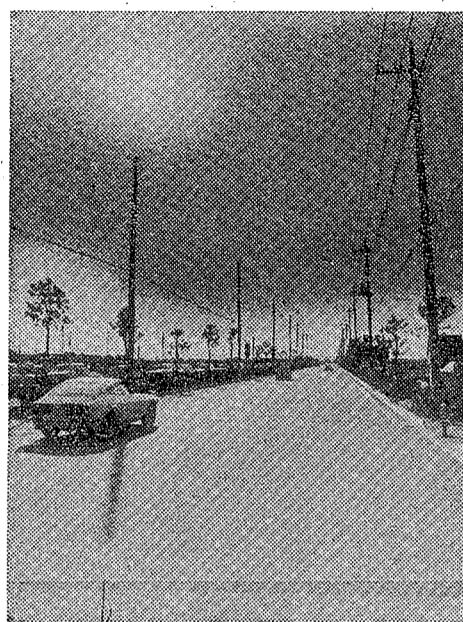
刈り株に日はかかりつ地の肌の
自分が影たばねあら土に伏す
秋ふかみゆくじつたるものある

名もない野の草花の小さいいのちを
誰も知らないまま、歴史の時間の中
に埋没させてしまつてしまふのだろう
か。市や市民の記録が残されるようだ
が、「越谷市の植物誌」とでもいふような
ものがつくられてもいいのではな
いか、な?と思つたりする。

川が多いだけに水田が豊かで、自転
車を駆つて廻りながら、越谷の視野の
広さに自分まで何となく裕福な気持ち
になる。

川が多いだけに水田が豊かで、自転
車を駆つて廻りながら、越谷の視野の
広さに自分まで何となく裕福な気持ち
になる。

快適で住みよいまちづくり



広々とした都市計画道路（千間台駅西口線）

水と緑と太陽、恵える越谷

住環境の整備をめざす

11月8日は都市計画の日。世界中で都市計画について考えようという日です。都市計画には、都市の健全な発展と秩序ある整備をかるための土地利用や、市街地の開発事業についてさまざまの計画があります。越谷市が将来にわたってまちづくりを行っていくうえで、この都市計画は大変重要な役割を果たしています。都市基盤や生活環境の整備は、朝一タスメでやれるものではありません。越谷市はいま、自然との調和をはかりながら、着実に将来に備いを残さない計画を一步ずつ進めています。

人口の急増

ピーア時は年間一万人

越谷市の人口は、昭和53年8月に21万人を超過しました。33年11月3日に市誕生したときの人口は4万8318人、この20年の間に4・4倍、世帯数では7・2倍と急速に人口が増えています。

人口増加の推移をみると、37年の地下鉄日比谷線と東武伊勢崎線との北越谷駅までの相互乗り入れが契機になっています。このころから農地の宅地化が自立して多くなり、いきなり住宅ラッシュがおよびました。都心から25キロという首都圏に位置してい

る越谷市は地下鉄の開通によって通勤時間が大幅に短縮されたため、昭和38年を境に、それまで2%台であった人口増加率が一気に6%台ともなればなりました。人口増加率は39年から毎年10%といふ高い伸び率を示し、42年には15・3%という驚異的な増加率を記録しました。越ヶ谷、大沢の両町を中心とした農村

進出など、活動的な市勢の發展の大きな原動力になりました。今日、越谷市は首都圏のなかの中小都市、県東部の拠点都市といわれるほどに発展しました。平均年齢が29歳（54年10月現在）という青年都市越谷には、躍動する若いエネルギーがみなぎっています。

しかし、このような市勢の發展の反面、人口の急激な増加は市にさまざまな問題を投げかけました。無秩序な開発が都市基盤や市民の生活環境、公共交通設施の遅れに影響を与えたのです。越谷市は都市化の波をまともにかぶってきました。

激しい人口の増加は、住宅や工場の面、人口の急激な増加は市にさまざまな問題を投げかけました。無秩序な開発が都市基盤や市民の生活環境、公共交通設施の遅れに影響を与えたのです。越谷市は都市化の波をまともにかぶってきました。

実施された 開発指導要綱

越谷市は全国的にも有数の人口急増を境に、それまで2%台であった人口増加率が一気に6%台ともなればなりました。人口増加率は39年から毎年10%といふ高い伸び率を示し、42年には15・3%といふ驚異的な増加率を記録しました。越ヶ谷、大沢の両町を中心とした農村

が遊ぶ場所もありません。排水にして用排水を利用しているため、住環境の悪化を招いています。

このように都市基盤の未整備による地盤だつた所が次々に開発されていった結果、生活空間がないほど住宅が密集している地域もみられるようになりました。こうした無秩序な開発が、今までの農村都市が首都圏住宅都市に一変してしまいました。

水田を埋めたたど道路や農道がそのまま利用されているような道路は道幅も狭く、自動車のすれ違いができないな

すすめられる

土地区画整理事業

都市基盤が整備されないまま、曲がりくねった道路や狭い道路に沿って住宅が密集している市街地の都市機能が低下し、生活環境も悪化していることばかりです。

越谷市では現住、地域との調和のとおりです。

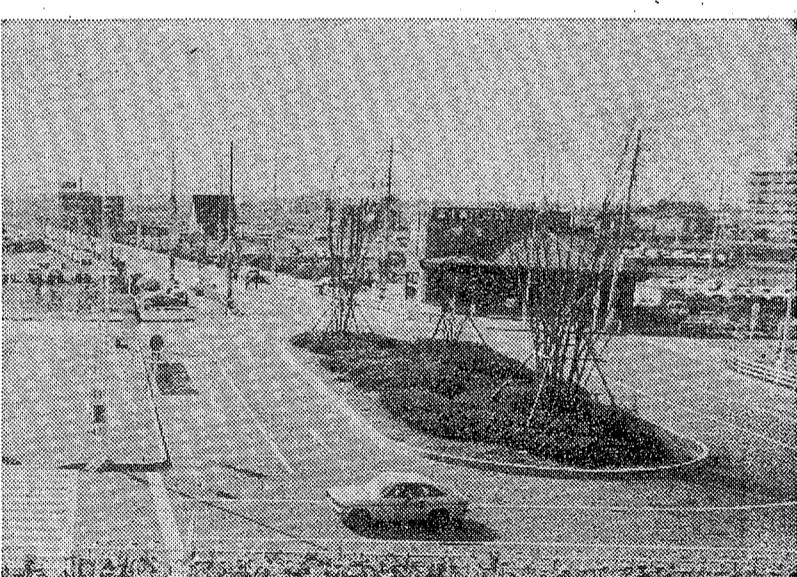
このようなく成市街地の都市機能を

はかり、快適な市民生活ができるよう

にするために適切な整備を検討してい

ます。そのためには、既存地域について用途地域を規制していく必要があります。

また、宅地開発に伴うさまざまな問題については開発指導要綱による行



ターミナルとして市民生活に必要な千間台駅西口駅前広場

わたしたちの 和問題

生きている部落差別

>>3

(10月1日号からの続き)

翌年

1月

の

と

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

11月8日は 都市計画の日

道路の整備や 鉄道高架複

越谷市域の面積は50.973haですが、市街化区域はそのうち39.7%の236.6haの面積を占めています。市街化区域を左の表のように用途別にみた割合は第一種、第二種、住居地域が84.4%、近隣商業、商業地域が5.8%というように、住宅都市としての計画的な基盤がつくりられています。

越谷市のまちづくりは第一に市民生活を優先とした環境整備を重点とす めなければなりません。昨年11月に市が策定した中期計画では、市民の精神的な豊かさとともに、毎日の生活を中心

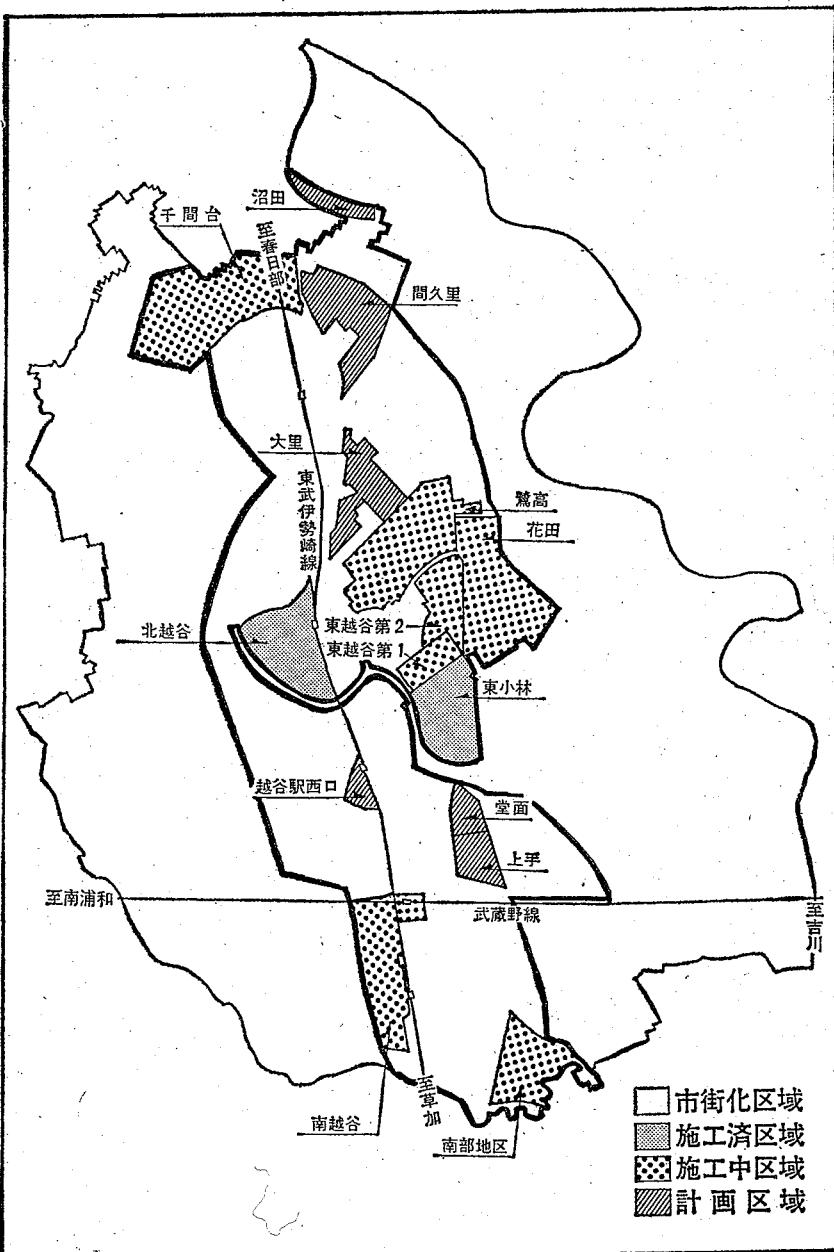
心に考えた住環境の整備を図り、市
民が自由に安全に歩けるま
で、自然とみどりが調和したまち、清
潔で美しく文化の創造をめざすまちと
して、心と心のやわらかいのあるまち、
じのよくな都市づくりが越谷市の目標
だ。

心に路線が一部完成しています。
計画街路の進捗について、地価の
高騰や住宅の密集、巨額な工事費など
困難な点が多いのも事実です。しか
し、幹線道路は市民のみさんの生活
のための道路、通勤、通学、買物のた
めの道路を一貫して計画的に整備して
いく必要があります。また、レクリエ
ーションのための道路、遊歩道なども
必要でしょう。道路は重要な動脈なの
であります。

自然をまもり住みよい 都市基盤をつくす

心に路線が一部完成していまや。
計画街路の進捗については、地価の高騰や住宅の密集、巨額な工費など困難な点が多いのも事実です。しかし、幹線道路も市民のみなさんの生活のための道路、通勤、通学、買物のための道路は一貫して計画的に整備していく必要があります。また、レクリエーションのための道路、遊歩道なども必要でしょう。道路は重要な動脈なのです。

越谷市土地区画整理事業区域



市民の憩いの場である公園(毛間台地区)

は大部分が農業用排水路を利用しています。市街地が拡大されていくにつれて、排水の量が増加し、これらの円滑な排水が長い間の懸念でした。このため、一般排水路の整備とともに、都市下水路の出羽堀、御料堀、幹線排水路である蒲生愛宕川、大成川、吉綾瀬川を運用河川として継続的に整備していくことになります。

このほか、現在すすめられている公共下水道事業、中川流域ト水道があります。この事業は47年に着手し、完成65年度を目指して建設の促進がはかられていく予定です。

前述述べてあるように計画開発・スプロール化は防災や市民生活のうえからも危険と不便が伴っています。計画的なまちづくりをするため、今後とも土地区画整理事業を積極的に促進していくなければなりません。また、それぞれの宅地造成についても、開発指導規範について理解と協力をいたさながら、将来に悔いを残さないまちづくりを総合的にすすめていきま

いても57年度完成を目指して施行中です。

してまた人工的空間をつくり、環境
が見えるところでは、少なくとも
本來の都市つくりとは言い難いの
です。

「地ありて人あり、人集まつて都
市をなす」。これは都正いらを計
るとき、常に頭におかなければな
らない大切な基本理念であると思
います。すなはち、計画者が都市に創
意を加えることを第一義とするので
はない、むしろ内在する「自然」に
従い、その「自然」が矛盾するとい
ふく流れのように手を貸すことば
り、そのことによってそこに住む
ひとの活動が田舎になるもの計る
ことであると考えます。つまり、計
画者が自分の意のままに、そこに族
然とある自然に適らじ、自然を無視
しません。

都市は、人類が自給自足の生活を
はづめたところから、物々交換や交易
を行なう場として生成しました。され
ば、自然や他民族に対する安全の確
保などから始
同、連帶の場
としての形態
をとる、次第
に集落が拡大されていきました。そ
の後も、時代とともに、社会の発展
に伴って、都市の機能が複雑化され
、都市の構造が変化してきました。そ
れは、その構造の変化によって、都
市の様相を呈してきたわけです。
都市つくりは、自然との調和の中
で、ひとの幸せな生活を築きあげる
ことを第1目的としています。そ
れは当然のこととして、長期の社
会経済的確立予測し、時間差タ
イムング（必要が生じてから実施す
るまでの時期のズレ）を極力縮少し
て対応するひじであり、同時に未来
永劫に適合するものを目標としなけ
れはなりません。つまり、子々孫々
まである相連じ
るものと連絡を取
て、常に運行する
かに運行する
かのことな
のです。

都市づくり (1)

日本を現実で軽じますと、八〇年代
における日本のエネルギー情勢には
いろいろな施設が備わって近代都
市居民の意識の創意工夫による
ものよりはな花や木を植え、いかに
咲かせ表示させるか（環境をいかに活
用し、有意義なものにしていくか）
は市民の道徳的創意工夫による
ことが大きいのです。結局、器じ花
が相呼応して都市が道徳をもち、發
展していくのではないかでしょうか。

市長 島村博市郎

には多くの河川が流れています。まだまだ水郷こしがやの名にふさわしい美しい景色が見られます。私たちほどのおかげがえのない自然をまもり育てていかなければなりません。

緑のオーパンスペースは、市民にとって憩いの場であり、休息の場として、あるいはレクリエーションの場としてその役割を果たしていますが、これらは災害における避難場所として、また大気汚染や騒音公害などの緩衝地帯としての効果も併せもつているのです。

公園その他の緑地はこのように都市基盤のうえからも大変重要な役割を果たしています。減少しつつある「ぶり」を取りもどすために、市では公園用地の建設をすすめています。都市計画道路と同様に地盤の高騰などから公園用地の確保が非常に困難な状況にはありますが、当面、土地区画整理事業の関連整備と運動広場などをかねた公園を整備していく計画です。



大沢演説会と同和会

明治二十九年四月十四日午後二時から、大沢町大松井（旧本陣大松福井）において政談演説会が開かれた。聴衆およそ三〇〇人、なかなかの盛況であった。弁士と演説者は、原又右衛門（現春日部市武里）が「代議政体」に

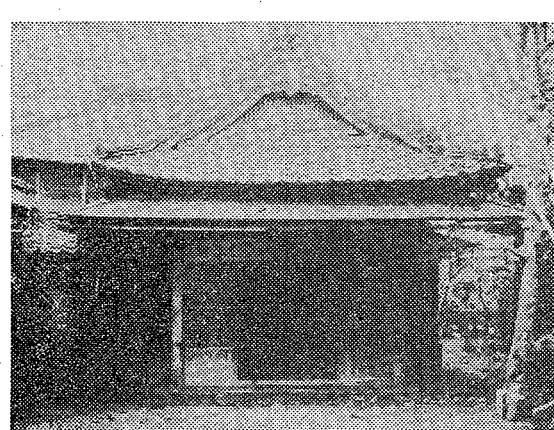
増税をかり軍國主義化をおし進めており、地方の人びとの負担を重くしていったので、旧来の自由党や改進党の人たちは、増税のまゝ政府自身の責任において政費を節減すべきである。

当時、政府は増税によって陸海軍の増強を、また、左衛門（出羽）ら家において政談演説会が開かれた。聴衆およそ三〇〇人、なかなかの盛況であった。弁士と演説者は、原又右衛門（現春日部市武里）が「代議政体」に

現する組織であることを訴えて聴衆の歓心をつかたが、聴衆は好感をもつて迎えたという。

当時、政府は増税によって陸海軍の増強をかり軍國主義化をおし進めており、地方の人びとの負担を重くしていったので、旧来の自由党や改進党の人たちは、増税のまゝ政府自身の責任において政費を節減すべきである。

写真は明治期の旧本陣福井家



お知らせのページ

市民まつりのページ

主催者：市中編集部 渡辺隆喜

開催場所：市中編集部（越ヶ谷）

開催日：11月17日（土）

開催時間：午前9時～午後5時

料金：一般300円、学生200円

対象：市内在住・勤務・在学の18歳以上

参加費：会員300円、一般400円

*会員特別賞を抽選で80名に選出

申込み：市中編集部内連絡事務局

電話番号：(04-2111-1111) 内線4680

問合せ：渡辺隆喜

電話番号：(04-2111-1111) 内線4680

会員登録料：300円

会員登録料：30

